

マーケットの動き（2026年3月30日～4月3日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。週初は、物価高を背景とした景気先行懸念から債券は買われました。その後も金利低下基調が続き、1日には一時、4.26%まで低下しました。しかし、3日に発表された3月の米雇用統計が市場予想を上回ったことから、早期利下げ観測が後退、債券は売りに転じ、金利は低下幅を縮めて週を終えました。

欧州国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2026年4月）

長期金利は、米国ではレンジ内で推移、欧州（ドイツ）では上昇圧力がかかりやすい

米国：原油価格の高騰を受けた世界的なインフレ懸念を背景に、FRB（米国連邦準備制度理事会）による年内の利下げ観測は後退しています。一方で、景気が悪化すると懸念もあり、強弱材料が交錯する中、長期金利はレンジ内で推移するとみています。

欧州：中東情勢の緊迫化を受けた原油価格高騰に伴う域内のインフレ懸念から、ECB（欧州中央銀行）による早期の利上げ観測が広がっています。ドイツ長期金利は上昇圧力がかかりやすい展開とみています。

	4月3日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.32	▲0.12	0.26	0.19	0.26
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	675.51	0.28%	▲0.39%	8.47%	14.03%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

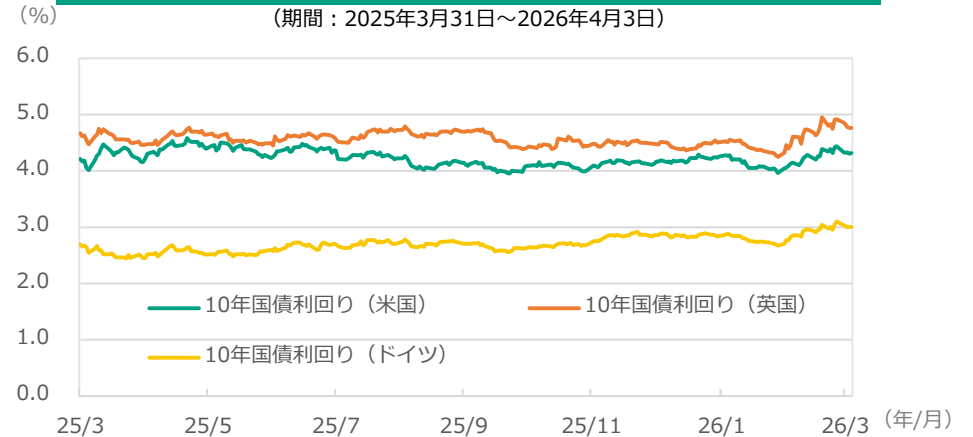
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202604_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国国債利回りの推移

（期間：2025年3月31日～2026年4月3日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2025年3月31日～2026年4月3日）



※2025年3月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成